審判上の確認事項

大会審判委員長

１．　本大会は，公益財団法人日本バレーボール協会２０２６年度「９人制競技規則」により実施する。

２．　プロトコール開始後，競技エリアに入ることができるのは，競技委員に提出した構成メンバー表（コンポジションシート）に記載された選手とチーム役員のみである。

３．　選手およびチーム役員は，審判役員，相手チームおよび観客に対して礼儀正しい行動をとり，試合中はフェアプレーに努めなければならない。相手チームに対しサーバーやサービスの軌道を隠す行為はフェアプレーの精神に反する行為として注意の対象となり，繰り返した場合は罰則の対象となる。

４．　競技規則の適用解釈について，ゲームキャプテンのみが主審に質問をすることができる。

５．　監督は試合中，自チームベンチ前の選手交代ゾーンを除いたフリーゾーン内で，移動しながら，または立ち止まって，指示を出してもよい。ただし，試合を妨害したり，線審の判定の妨げになる場所に立ち止まったり，判定に影響を及ぼす行為は罰則の対象となる。チームベンチに座るときは，記録席に最も近い場所に座ること。

６．　タイムアウトや選手交代の要求は，ラリー完了後，次のサービス許可のホイッスルまでに要求する。ラリーがノーカウントとなったときは，選手の負傷や体調不良の場合の選手交代の要求を除き，両チームとも中断の要求はできない。また，遅延警告の罰則が適用されたチームは同じ中断中に中断の要求をすることはできない。

７．　タイムアウトの要求は，監督がハンドシグナルを示して要求すること。監督が不在の場合はゲームキャプテンがハンドシグナルを示して要求すること。

８．　タイムアウトに入ったら，プレー中の選手はコートから離れなくてはならない。タイムアウトは３０秒間であるが，選手は３０秒を待たずにコートに戻ってもよい。ただし，タイムアウトの時間が短くなることはない。タイムアウト終了のホイッスルが吹かれたら，速やかに試合が再開できる準備を行うこと。試合の進行を遅らせる行為は，遅延の制裁の対象となる。

９．　選手交代の要求とは，コートに入る準備のできた交代選手が選手交代ゾーンに入ることをいう。２組以上の選手交代を同時にしようとするときは，同一の要求とみなせるように交代選手が選手交代ゾーンに入らなければならない。

１０．　選手の負傷や体調不良の場合，監督がその状況を確認し，交代が必要と判断したときは，ハンドシグナルを示して選手交代の要求すること。これは予定していない急な選手交代であり，交代選手がユニフォーム姿になるのに必要な時間をチームに与える。監督不在の場合はゲームキャプテンがハンドシグナルを示して要求すること。

１１．　ボールの侵入や選手の負傷などにより，ラリーがノーカウントとなった場合は，そのラリーが第１サービスで始まっていれば第１サービスで試合を再開し，第２サービスで始まっていれば第２サービスで試合を再開する。

１２．　セット間は，自チーム側のフリーゾーンで，ボールを使用してウォームアップをすることができる。

１３．　フロア・ワイピングは，審判員の許可を得る必要はなく，コート内の選手が保持しているタオルを用いて，速やかにフロアを拭くこと。必要以上に時間をかけてコートを拭くなど，試合を遅らせる行為は，遅延の制裁の対象となる。柄付きモップは，審判が指示したときに使用することができるが，タイムアウト中・セット間はチームの判断で使用することができる。